

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **2002-032545**

(43)Date of publication of application : **31.01.2002**

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

(21)Application number : **2000-215773**

(71)Applicant : **OSAKA GAS CO LTD**

(22)Date of filing : **17.07.2000**

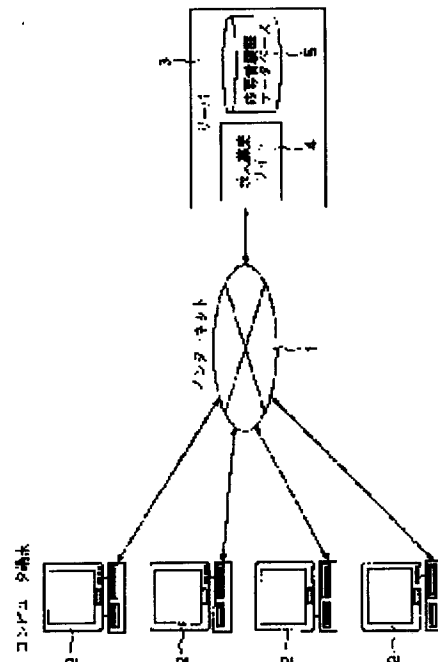
(72)Inventor : **UCHIBORI YASUJI**

(54) JOB OFFER EMPLOYMENT METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a job offer employment method using the Internet in which the basic ability and vocation of an application are previously judged and talent fitted to the type of occupation for job offer is speedily and easily selected.

SOLUTION: An initial input step for urging the input of a desired occupation type or a desired company and the input of original identification information which is previously issued with respect to access from the applicant to a job offer recruitment site 4 installed in a server 3 through the Internet 1 by a computer processing in the server 3 connected to the Internet 1 and storing the input content, a judgment step for the number of applying times for judging whether the access of the applicant is the first time or not based on the input content of the initial input step, and a test step for permitting the applicant to take a prescribed test as a first selection through the Internet 1 and for storing the test result when access is judged to be the first time in the judgment step for the number of applying times, are performed.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

28.11.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-32545
(P2002-32545A)

(43)公開日 平成14年1月31日(2002.1.31)

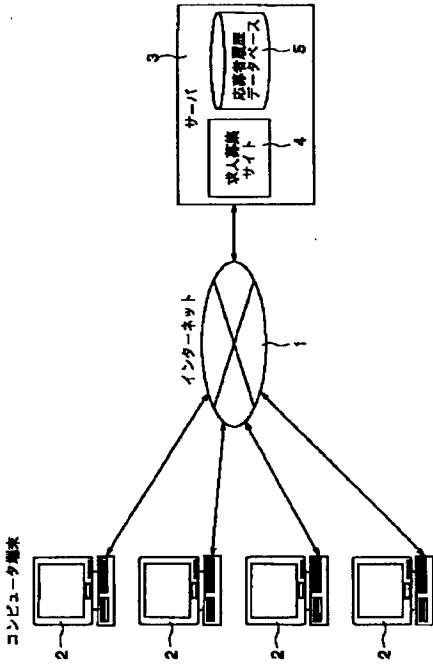
| (51)Int.Cl. ⁷ | 識別記号 | F I | テ-マ-ト*(参考) |
|--------------------------|-------|---------------|-------------------|
| G 0 6 F 17/60 | 1 6 2 | G 0 6 F 17/60 | 1 6 2 Z 5 B 0 4 9 |
| | 1 5 8 | | 1 5 8 |
| | 5 0 2 | | 5 0 2 |

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 9 頁)

| | | | |
|----------|-----------------------------|----------|---|
| (21)出願番号 | 特願2000-215773(P2000-215773) | (71)出願人 | 000000284 大阪瓦斯株式会社 大阪府大阪市中央区平野町四丁目1番2号 |
| (22)出願日 | 平成12年7月17日(2000.7.17) | (72)発明者 | 内堀 保治 大阪府大阪市中央区平野町四丁目1番2号 大阪瓦斯株式会社内 |
| | | (74)代理人 | 100107308 弁理士 北村 修一郎 (外1名) |
| | | Fターム(参考) | 5B049 CC33 DD01 DD05 EE01 FF03 FF04 FF09 GG04 GG07 |

(54)【発明の名称】 求人採用方法

(57)【要約】
【課題】 応募者の基礎能力や適正を事前に判定し、求人職種に適した人材を迅速且つ簡便に選別できるインターネットを利用した求人採用方法を提供する。
【解決手段】 インターネット1に接続したサーバ3内のコンピュータ処理によって、サーバ3内に設けられた求人募集サイト4への応募者からのインターネット1を介したアクセスに対して、希望職種と希望企業の少なくとも何れか一方の入力、及び、予め発行された本人識別情報の入力を促し、その入力内容を記憶する初期入力ステップと、初期入力ステップの入力内容に基づいて、少なくともその応募者のアクセスが1回目であるか否かを判定する応募回数判定ステップと、応募回数判定ステップで、1回目のアクセスと判定した場合に、インターネット1を介した1次選考としての所定のテストを応募者に受けさせ、そのテスト結果を記憶するテストステップとを実行する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 インターネットを利用した求人採用方法であって、

インターネットに接続したサーバ内のコンピュータ処理によって、前記サーバ内に設けられた求人募集サイトへの応募者からのインターネットを介したアクセスに対して、希望職種と希望企業の少なくとも何れか一方の入力、及び、予め発行された本人識別情報の入力を促し、その入力内容を記憶する初期入力ステップと、前記初期入力ステップの入力内容に基づいて、少なくともその応募者のアクセスが1回目であるか否かを判定する応募回数判定ステップと、前記応募回数判定ステップで、1回目のアクセスと判定した場合に、インターネットを介した所定のテストを応募者に受けさせ、そのテスト結果を記憶するテストステップと、を実行し、前記テストステップにおける応募者の成績に基づいて、その応募者に対する採用1次選考を行うことを特徴とする求人採用方法。

【請求項2】 前記テストステップにおけるテスト開始からの経過時間を計測することを特徴とする請求項1記載の求人採用方法。

【請求項3】 前記応募回数判定ステップで、2回目以降のアクセスと判定した場合に、前記テストステップへ移行せずに、前記応募者が同じテストを2回受験するのを受け付けないことを特徴とする請求項1または2記載の求人採用方法。

【請求項4】 前記応募回数判定ステップで、2回目以降のアクセスと判定した場合に、前記テストステップにおいて、前記応募者のテスト成績が2回目以降のテストの成績である旨の情報を付加することを特徴とする請求項1または2記載の求人採用方法。

【請求項5】 前記応募回数判定ステップで、2回目以降のアクセスと判定した場合に、前記テストステップにおいて、1回目のアクセス時に行ったテストとは異なるテストを実施することを特徴とする請求項4記載の求人採用方法。

【請求項6】 前記初期入力ステップの後に、前記求人募集サイトに係るアクセス履歴を記録したクッキーファイルが前記応募者のコンピュータ端末に存在するか否かを調べるクッキー判定ステップを実行し、更に、前記クッキー判定ステップでクッキーファイルが存在する場合には、前記クッキーファイルを前記応募者のコンピュータ端末から読み出すクッキーファイル読み出しステップを実行し、前記応募回数判定ステップにおいて、前記初期入力ステップの入力内容と、前記クッキー判定ステップ或いは前記クッキー判定ステップと前記クッキーファイル読み出しステップで得られた前記クッキーファイルに関する情報とに基づいて、少なくとも前記応募者のアクセスが1回目であるか否かを判定することを特徴とする請求項1

～5の何れか1項に記載の求人採用方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、インターネットを利用した求人採用方法に関する。

【0002】

【従来技術】従来、企業が求人募集する場合、職歴、学歴、資格等の採用条件を提示して、応募者を募っていた。また、昨今のインターネットの普及に伴い、個々の企業が自社のホームページに求人募集用の案内を掲示したり、就職斡旋会社等が開いている求人検索用ページに求人職種や採用条件等を登録することにより、就職希望者は、各企業のホームページや求人検索用ページにインターネットを介してアクセスして、自己の就職を希望する企業の採用条件や連絡先を知ることができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、採用条件として職歴、学歴、資格等を規定しても、実際に必要な人材以外の人も多数応募してくる可能性があり、その多数の応募者の中から適当な人材を選抜する作業には、相当な時間、費用等がかかってしまう。また、例えば、電気工事会社の求人で、「第2種電気工事士の資格を有すること。」と国家資格のような明確な採用基準を示せる職種は、かかる資格に基づいて応募者を適切に選別できる可能性があるが、システムエンジニアの募集のように、情報処理技術者の資格を有していても、技術革新が急なコンピュータ分野において、最新のコンピュータ技術を有していないと意味がない職種では、採用基準の提示の仕方が難しいという問題がある。

【0004】本発明は、上述の問題点を鑑みてなされたものであり、その目的は、上記問題点を解消し、応募者の基礎能力や適正を事前に判定し、求人職種に適した人材を迅速且つ簡便に選別できる求人採用方法を提供する点にある。

【0005】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するための本発明に係る求人採用方法の第一の特徴構成は、特許請求の範囲の欄の請求項1に記載した如く、インターネットを利用した求人採用方法であって、インターネットに接続したサーバ内のコンピュータ処理によって、前記サーバ内に設けられた求人募集サイトへの応募者からのインターネットを介したアクセスに対して、希望職種と希望企業の少なくとも何れか一方の入力、及び、予め発行された本人識別情報の入力を促し、その入力内容を記憶する初期入力ステップと、前記初期入力ステップの入力内容に基づいて、少なくともその応募者のアクセスが1回目であるか否かを判定する応募回数判定ステップと、前記応募回数判定ステップで、1回目のアクセスと判定した場合に、インターネットを介した所定のテストを応募者に受けさせ、そのテスト結果を記憶するテスト

ステップとを実行し、前記テストステップにおける応募者の成績に基づいて、その応募者に対する採用1次選考を行う点にある。尚、ここで、1回目のアクセスとは、前記初期入力ステップにおいて本人識別情報の入力に伴う、つまり求人募集に対する応募の意志表示を示した1回目のアクセスを意味する。従って、前記本人識別情報の発行だけのアクセスや、どのような企業、職種の求人があるかを単に検索するだけのアクセスは1回目のアクセスとは見做さない。

【0006】同第二の特徴構成は、特許請求の範囲の欄の請求項2に記載した如く、上記第一の特徴構成に加えて、前記テストステップにおけるテスト開始からの経過時間を計測する点にある。

【0007】同第三の特徴構成は、特許請求の範囲の欄の請求項3に記載した如く、上記第一または第二の特徴構成に加えて、前記応募回数判定ステップで、2回目以降のアクセスと判定した場合に、前記テストステップへ移行せずに、前記応募者が同じテストを2回受験するのを受け付けない点にある。

【0008】同第四の特徴構成は、特許請求の範囲の欄の請求項4に記載した如く、上記第一または第二の特徴構成に加えて、前記応募回数判定ステップで、2回目以降のアクセスと判定した場合に、前記テストステップにおいて、前記応募者のテスト成績が2回目以降のテストの成績である旨の情報を付加する点にある。

【0009】同第五の特徴構成は、特許請求の範囲の欄の請求項5に記載した如く、上記第四の特徴構成に加えて、前記応募回数判定ステップで、2回目以降のアクセスと判定した場合に、前記テストステップにおいて、1回目のアクセス時に行ったテストとは異なるテストを

実施する点にある。

【0010】同第六の特徴構成は、特許請求の範囲の欄の請求項6に記載した如く、上記第一乃至第五の特徴構成の何れか一つに加えて、前記初期入力ステップの後、前記求人募集サイトに係るアクセス履歴を記録したクッキーファイルが前記応募者のコンピュータ端末に存在するか否かを調べるクッキー判定ステップを実行し、更に、前記クッキー判定ステップでクッキーファイルが存在する場合には、前記クッキーファイルを前記応募者のコンピュータ端末から読み出すクッキーファイル読み出しステップを実行し、前記応募回数判定ステップにおいて、前記初期入力ステップの入力内容と、前記クッキー判定ステップ或いは前記クッキー判定ステップと前記クッキーファイル読み出しステップで得られた前記クッキーファイルに関する情報とに基づいて、少なくとも前記応募者のアクセスが1回目であるか否かを判定する点にある。

【0011】以下に作用並びに効果を説明する。本発明に係る求人採用方法の第一の特徴構成によれば、インターネットを介して不特定多数の応募があった場合でも、

前記テストステップで予め応募者の適正や基礎能力をある程度判定することができるため、応募段階で明らかに不適正な応募者を2次以降の選考に移る前に篩い落とすことができ、2次以降の選考対象者の数を絞ることにより、少ないコストと労力で、求人職種に適した人材を迅速且つ簡便に選別できる。

【0012】更に、応募回数判定ステップで、応募者の本人識別情報等の基づいて、同一人が何度もアクセスするのを検出できるため、前記テストステップでのテストを初めて受ける応募者が、同じテストを2回以上受けようとする応募者に対して不利にならないようにでき、応募者間の公平性が担保される。尚、仮に不正に同じテストを2回以上受験して1次選考を通過した応募者がいるとしても、かかる応募者は応募者全体に対して少数であると想定され、且つ、2次選考以降で再選別できるので、1次選考により応募者を絞り込むという所期の効果は達成される。

【0013】同第二の特徴構成によれば、前記テストステップでのテストに対して制限時間を設けたり、各設問にどの程度時間を要していたかが分かる。また、テスト時間を制限することで、カンニング等の不正行為を未然に防止でき、テストの公平性がより確実に担保される。

【0014】同第三の特徴構成によれば、前記テストステップにおいて同じテストを2回以上受験する応募者を排除することにより、不正に2回以上受験する応募者を除き、上記した応募者間の公平性が担保される。また、前記テストステップでは、初めて受験する応募者のみを対象とするため、求人職種に対する基礎知識の有無等の比較的簡単な適正判定を行うことにより、1次選考を実施できる。

【0015】同第四の特徴構成によれば、2回以上アクセスした応募者にも前記テストステップでの再受験を認めるため、不正に1回目のアクセスと見せかけて再受験する応募者の数を減らすことができ、また、1回目の受験結果と2回目以降の受験結果とを区別できるため、上記した応募者間の公平性が担保される。例えば、2回目以降のアクセスに対しては、テスト成績が良くても1次選考で落とすことも可能である。或いは、2回以上アクセスした応募者に対して、2次選考以降で、1次選考の結果が真の実力か否かを特別に精査することも可能である。

【0016】同第五の特徴構成によれば、1回目の受験時における成績が悪くても、2回目のアクセスによって再受験することが可能となり、たまたま1回目の受験で要領が掴めず真の実力が発揮できなかった真に採用すべき応募者を採用する余地が残される。また、1回目と2回目のテスト内容を変化させることで、2回目の受験も初めての受験となり、同じテストを再受験することによって生じる受験回数による不公平を防止できる。

【0017】同第六の特徴構成によれば、同じコンピュ

ータ端末から別人になりすまして1回目のアクセスを行ってテスト内容を入手し、その入手したテストを、時間をかけ或いは参考書を調べて回答しておき、本人名で次回1回目のアクセスとして同じテストを受験した場合でも、同じコンピュータ端末からの2回目以降のアクセスであることを、クッキーファイルの有無或いはファイルに書き込まれた情報によって判断することができるので、かかる不正な受験に対して適切に対応することができる。

【0018】具体的には、1回目のアクセス時の初期入力ステップ以降において、クッキーファイルを応募者のコンピュータ端末内に生成しておけば、2回目のアクセス時には、そのクッキーファイルの存在によって2回目以降のアクセスであることが判る。また、1回目のアクセス時のテストステップ開始時点で、クッキーファイルにテスト開始日時を書き込むようにすれば、2回目のアクセス時には、そのクッキーファイルの中に過去のテスト開始日時があれば、2回目以降のアクセスであることが判る。

【0019】更に、予めインターネットを介して本人識別情報を発行する時に、クッキーファイルを応募者のコンピュータ端末内に生成するようにすれば、クッキー判定ステップにおいてそのクッキーファイルがなければ、クッキーファイルを不正に消去してアクセスした応募者を検出でき、2回目以降のアクセスである可能性が高いと推定できる。この場合、例えば、上記のように、少なくとも1回目のアクセス時のテストステップ開始時点で、クッキーファイルにテスト開始日時を書き込むようにすればよい。

【0020】

【発明の実施の形態】本発明に係るインターネットを利用した求人採用方法（以下、適宜「本発明方法」という。）の実施の形態を、図面に基づいて説明する。

【0021】図1に示すように、本発明方法では、インターネット1に接続したコンピュータ端末2からインターネット1に接続したサーバ3内に設けられた求人募集サイト4へアクセスした応募者に対する求人採用過程の1次選考までの処理が、サーバ3内のコンピュータ処理によって実行される。

【0022】本発明方法の処理の流れを、図2に基づいて説明する。本発明方法の処理に入る前の前提として、求人企業は、先ず自己のホームページまたは就職斡旋業者等の求人募集サイト4に求人広告を掲載する。そして、就職希望者は、自己のコンピュータ端末2からインターネット1を介して求人募集サイト4にアクセスして、所定の登録手続を行う。この登録手続は、就職希望者が、特定企業及び特定職種の求人募集に対して正式に応募する前の手続であり、その登録内容が、本発明方法における本人確認に利用される。登録手続は、種々の形態のものがあるが、簡単なものとして、本人の住所、氏

名、現職、連絡先等の登録とともに、本人識別情報としてのID番号と暗証番号が付与される。以下、就職斡旋業者等の求人募集サイト4に求人広告を掲載した場合を例に説明する。

【0023】本発明方法は、初期入力ステップ（ステップS10～S30）と、応募回数判定ステップ（ステップS40～S70）と、テストステップ（ステップS80、S90）とを順次実行する。

【0024】ステップS10で、登録手続を済ませた就職希望者で、特定企業及び特定職種の求人募集に対して正式に応募する応募者は、自己のコンピュータ端末2からインターネット1を介して求人募集サイト4にアクセスする。かかるアクセスは、コンピュータ端末2に備えられた所定のブラウザ・ソフトウェアが処理する。サーバ3は、応募者のアクセスに対して、図3に示すような求人募集サイト4のホームページに示す求人職種のリストの画面ファイルを、インターネット1を介して応募者のコンピュータ端末2に出力する。応募者は、コンピュータ端末2の表示画面に表示された求人職種のリストの中から希望職種を選択する。

【0025】ステップS20では、サーバ3は、応募者の希望職種の選択入力に応じて、図4に示すような求人企業のリストの画面ファイルを、インターネット1を介して応募者のコンピュータ端末2に出力する。応募者は、コンピュータ端末2の表示画面に表示された求人企業のリストの中から希望企業を選択する。

【0026】ステップS30では、サーバ3は、応募者の希望企業の選択入力に応じて、図5に示すような本人識別情報としてのID番号と暗証番号を入力する入力画面ファイルを、インターネット1を介して応募者のコンピュータ端末2に出力する。応募者は、コンピュータ端末2の表示画面に表示された入力画面にID番号と暗証番号を入力する。

【0027】初期入力ステップ（ステップS10～S30）で応募者が選択入力及び入力した内容は、後続ステップでの利用のためにサーバ3の所定の記憶領域に一旦記憶される。

【0028】ステップS40では、サーバ3は、応募者のID番号と暗証番号の入力に応じて、それらの番号が、既に登録されているものと一致するか否かを判定する。ID番号と暗証番号の何れもが一致しない場合は、ステップS30に戻って再度ID番号と暗証番号の入力を促す。

【0029】ステップS30とS40が予め設定された回数繰り返された場合は、ステップS50に移行して、サーバ3は、図6に示すように応募を受け付けできない旨を表示するとともに登録手続を促す画面ファイルを、インターネット1を介して応募者のコンピュータ端末2に出力する。

【0030】ステップS40においてID番号と暗証番

号が既に登録されているものと一致した場合は、ステップS60に移行して、本人であると推定して、同じ希望職種と希望企業に対するアクセスが募集期間内において1回目であるか否かを判定する。ここで、全ての登録者について、過去にどの職種のどの企業にいつ応募したかの履歴をID番号別に管理する応募履歴データベース5がサーバ3内に形成されており、この応募履歴データベース5を検索して上記の判定を行う。また、検索が終了すると、初期入力ステップ(S10～S30)で入力された職種と企業、ID番号、及び、アクセス時間に基づいて、応募履歴データベース5を更新する。

【0031】ステップS60で、ステップS10、S20で入力された職種と企業に対する応募が募集期間内において既に1回以上あったと判定された場合は、ステップS70に移行し、サーバ3が、図7に示すような既に応募済で、再受験できない旨を表示する画面ファイルを、インターネット1を介して応募者のコンピュータ端末2に出力する。

【0032】ステップS60で、ステップS10、S20で入力された職種と企業に対する応募が募集期間内において1回目であると判定された場合は、ステップS80に移行し、サーバ3が、図8に示すような、テスト問題と回答欄を表示する画面ファイルを、インターネット1を介して応募者のコンピュータ端末2に出力する。応募者は、コンピュータ端末2に表示された問題を制限時間内で逐次回答していく。テスト問題と回答欄を表示する画面ファイルは、応募者の回答のペースに応じて、順次更新されて行く。尚、ステップS80で応募者がテスト問題の回答を開始すると、所定の計時用プログラムを起動し、コンピュータ端末2の計時手段を用いたテスト時間の計測を開始する。予め設定されたテスト時間が経過するか、そのテスト時間が経過する前に、全てのテスト問題の回答が終了すると、回答したテスト結果が、サーバ3内の所定の記憶領域に保存され、ステップS80が終了する。

【0033】引き続き、ステップS90では、ステップS80の終了の仕方に応じて、図9(イ)または(ロ)に示すテスト終了画面を示す画面ファイルを、インターネット1を介して応募者のコンピュータ端末2に出力する。

【0034】ここで、ステップS80において、インターネット1を介したコンピュータ端末2からサーバ3へのテスト結果の送信において、その通信速度は必ずしも一定速度が保証されているものではないため、サーバ3内でテスト経過時間を計測すると、応募者間で経過時間に差が生じる虞がある。そこで、上記のように、コンピュータ端末2の計時手段を用いたテスト時間の計測を行うようにするのが好ましい。

【0035】例えば、J A V A (登録商標)を使った場合、テスト問題と回答欄を表示するテスト画面をフレ

ームで2分割し、一方のフレームに経過時間計測用J A V Aアプレットを含んだページを表示し、他方のフレームで順次問題を表示していく。予め設定されたテスト時間が経過してステップS80が終了する場合、上記J A V Aアプレットが現在表示しているページ全体を更新し、ステップS90の終了画面を表示する。

【0036】テストの回答は、求人募集サイト4の管理者或いは求人募集した企業において採点され、その結果を電子メールで応募者のコンピュータ端末2に送信する。また、合格者に対しては、郵送で2次試験や面接の場所等の通知を行う。

【0037】以下に別実施形態を説明する。

〈1〉上記実施形態では、ステップS60での応募回数の判定処理は、専ら応募履歴データベース5の検索により行っていたが、同一人が他人に成り済まして虚偽の登録を行い一旦本発明方法による1次選考を受験してから、本人としての正しい登録で、1回目のアクセスを行った場合、ステップS60で1回目のアクセスと判定され、同じ問題を再受験できる可能性がある。かかる再受験を認めると応募者間の公平性が阻害され、詐欺行為によって1次選考を合格した応募者を採用する虞がある。かかる応募者を2次選考や面接で発見できる可能性はあるものの、テストステップに移行する前に発見できるのが好ましい。

【0038】そこで、図10に示すように、応募回数判定ステップのステップS40においてID番号と暗証番号が既に登録されているものと一致した場合に、ステップS60に移行する前に、求人募集サイト4に係るアクセス履歴を記録したクッキーファイルが応募者のコンピュータ端末2に存在するか否かを調べるクッキー判定ステップS51を実行する。

【0039】クッキー判定ステップS51でクッキーファイルが存在しない場合には、ステップS52において、初期入力ステップ(S10～S30)で入力された職種と企業、ID番号、及び、アクセス時間に基づいて、応募履歴データベース5を更新するとともに、更新内容を書き込んだクッキーファイルを作成して、応募者のコンピュータ端末2に送信する。コンピュータ端末2では、送信されたクッキーファイルを、ブラウザ・ソフトウェアが管理している所定の記憶領域に、求人募集サイト4に係るクッキーファイルであることを識別可能に保存する。

【0040】ステップS52のクッキーファイル生成ステップを終了すると、クッキー判定ステップS51でクッキーファイルが存在しないと判定されているので、同じコンピュータ端末2からのアクセスとしては1回目のアクセスと判断し、ステップ60へ移行する。但し、ステップ60における応募履歴データベース5の更新は、ステップS52で既に行われているので行わない。ステップ60で1回目のアクセスであると判定された場合、

10

20

30

40

50

過去に同じコンピュータ端末2からのアクセスもなかったため、同一人からの1回目のアクセスである可能性が極めて高いと判断して、後続のテストステップを実行する。

【0041】他方、クッキー判定ステップS51でクッキーファイルが存在する場合には、クッキーファイルを応募者のコンピュータ端末2から取り込み、その中に書かれた情報を読み出すクッキーファイル読み出しステップS53を実行する。

【0042】引き続き、ステップS53で読み出したID番号が、ステップS30で入力されたID番号と一致するかの判定をステップS54で行う。ステップS54で二つのID番号が一致した場合は、ステップS60に移行する。また、ステップS54で二つのID番号が一致しない場合は、ステップS55において、ID番号以外の住所や電話番号等の属性情報に基づいて、応募履歴データベース5を検索して、ステップS60と同様の同じ希望職種と希望企業に対するアクセスが募集期間内において1回目であるか否かの判定を行う。ここで、ステップS10、S20で入力された職種と企業に対する応募が募集期間内において既に1回以上あったと判定された場合は、ステップS70に移行する。

【0043】ステップS55で、ステップS10、S20で入力された職種と企業に対する応募が募集期間内において1回目であると判定された場合は、テストステップS80に移行するが、過去に異なるID番号による受験を行っている再受験者であることが分かるように、テスト結果とともに、サーバ3内の所定の記憶領域に保存する。従って、かかる応募者は、再受験者であることの情報に基づいて、1次選考で不合格とするか、或いは、テスト結果が良い場合は（当然に良いことが想定される）、再受験者であることの情報に基づいて、2次選考や面接で慎重に選別することができる。

【0044】〈2〉上記別実施形態では、クッキーファイルが故意に削除されてからアクセスされたり、或いは、コンピュータ端末2で使用するブラウザ・ソフトウェアの設定が外部からのクッキーファイルの書き込みを拒否するようになっている場合は、クッキー判定ステップS51で常にクッキーファイルが存在しないと判定され、再受験者を発見できない可能性がある。

【0045】そこで、登録手続時に、クッキーファイル生成ステップを実行する。つまり、発行したID番号とアクセス時間等の属性情報を応募履歴データベース5に記録するとともに、同内容を書き込んだクッキーファイルを作成して、応募者のコンピュータ端末2に送信する。コンピュータ端末2では、送信されたクッキーファイルを、ブラウザ・ソフトウェアが管理している所定の記憶領域に、求人募集サイト4に係るクッキーファイルであることを識別可能に保存する。

【0046】そして、クッキー判定ステップS51で、

クッキーファイルが存在しない場合には、例えば、登録手続に問題がある旨の表示とともに、登録手続のやり直しを促し、ステップS60へは移行しないようにして、再受験を防止する。

【0047】また、登録手続時やステップS52のクッキーファイル生成ステップで、コンピュータ端末2で正しくクッキーファイルが作成されたか否かをチェックすべく、直ぐにクッキーファイルを検証するステップを実行するようにしても良い。ここで、クッキーファイルが作成されていない場合は、上記と同様に、例えば、登録手続に問題がある旨の表示とともに、登録手続のやり直しを促し、ステップS60へは移行しないようにして、再受験を防止する。

【0048】〈3〉上記各実施形態では、ステップS60で、ステップS10、S20で入力された職種と企業に対する応募が募集期間内において既に1回以上あったと判定された場合は、ステップS70に移行していたが、ステップS70に移行する代わりに、テストステップS80に移行するが、過去に同じID番号による受験を行っている再受験者であることが分かるように、テスト結果とともに、サーバ3内の所定の記憶領域に保存する。従って、かかる応募者は、再受験者であることの情報に基づいて、1次選考で不合格とするか、或いは、テスト結果が良い場合は（当然に良いことが想定される）、再受験者であることの情報に基づいて、2次選考や面接で慎重に選別することができる。

【0049】〈4〉或いは、上記各実施形態では、ステップS60で、ステップS10、S20で入力された職種と企業に対する応募が募集期間内において既に1回以上あったと判定された場合は、ステップS70に移行していたが、ステップS70に移行する代わりに、テストステップS80に移行するが、応募履歴データベース5を検索して過去に同じID番号による受験を行った問題と異なる問題を出題するようにしても構わない。更に、再受験者であることが分かるように、テスト結果とともに、サーバ3内の所定の記憶領域に保存する。従って、かかる応募者は、再受験者であることの情報に基づいて、テスト結果が良い場合は、再受験者であることの情報に基づいて、2次選考や面接で慎重に選別することができる。

【0050】更に、過去に異なるID番号による受験を行っている再受験者であることが発見された場合にも、テストステップS80に移行するものの、応募履歴データベース5を検索して過去に異なるID番号による受験を行った問題と異なる問題を出題するようにしても構わない。応募者は同じ問題が出題されると期待しているところに、異なる問題が出題されるので、当然にテスト成績は良くないものと想像される。

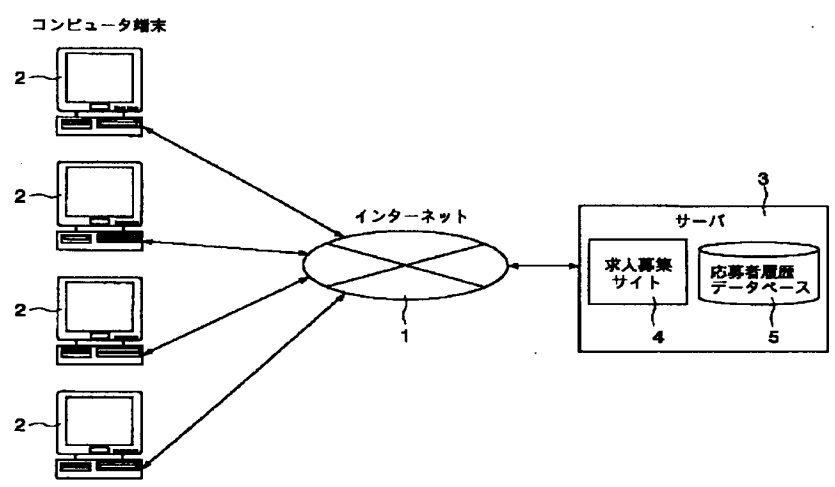
【0051】〈5〉本発明方法は、就職斡旋業者等の求人募集サイト4に求人広告を掲載した場合に限らず、求

(7) 特開2002-32545 12

11
人企業は、先ず自己のホームページの求人募集サイト4に求人広告を掲載する場合にも適用可能である。この場合、ステップS20の希望企業選択処理は不要となる。また、求人募集サイト4が特定職種の求人募集サイトである場合は、ステップS10の希望職種選択処理が不要となる。
【0052】〈6〉また、初期入力ステップの各ステップS10～S30の実行順序は上記実施形態に限定されるものではない。
【図面の簡単な説明】
【図1】本発明に係る求人採用方法に関するハードウェア構成を示す説明図
【図2】本発明に係る求人採用方法の一実施形態を示す流れ図
【図3】本発明に係る求人採用方法で表示される求人職種のリストの一例を示す説明図
【図4】本発明に係る求人採用方法で表示される求人企業のリストの一例を示す説明図

*【図5】本発明に係る求人採用方法で表示される本人識別情報の入力画面例を示す説明図
【図6】本発明に係る求人採用方法で表示される登録手続を促す画面例を示す説明図
【図7】本発明に係る求人採用方法で表示される既に応募済で再受験できない旨の画面例を示す説明図
【図8】本発明に係る求人採用方法で表示されるテスト問題と回答欄の画面例を示す説明図
【図9】本発明に係る求人採用方法で表示されるテスト終了画面の一例を示す説明図
【図10】本発明に係る求人採用方法の別実施形態における応募回数判定ステップを示す流れ図
【符号の説明】
1 インターネット
2 コンピュータ端末
3 サーバ
4 求人募集サイト
5 応募履歴データベース

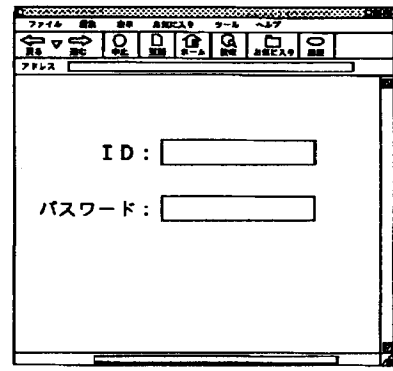
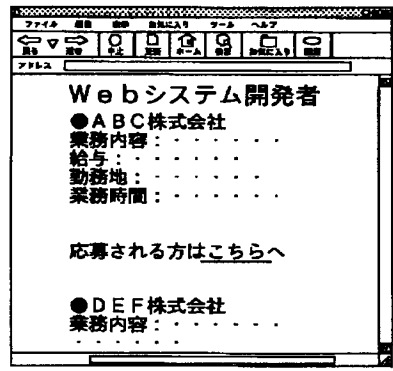
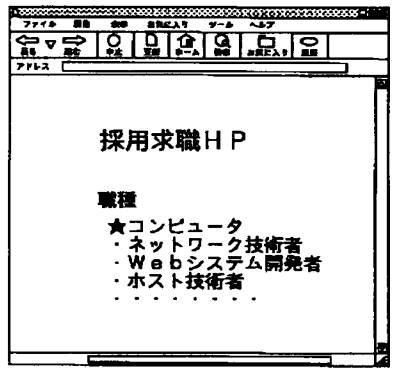
【図1】



【図3】

【図4】

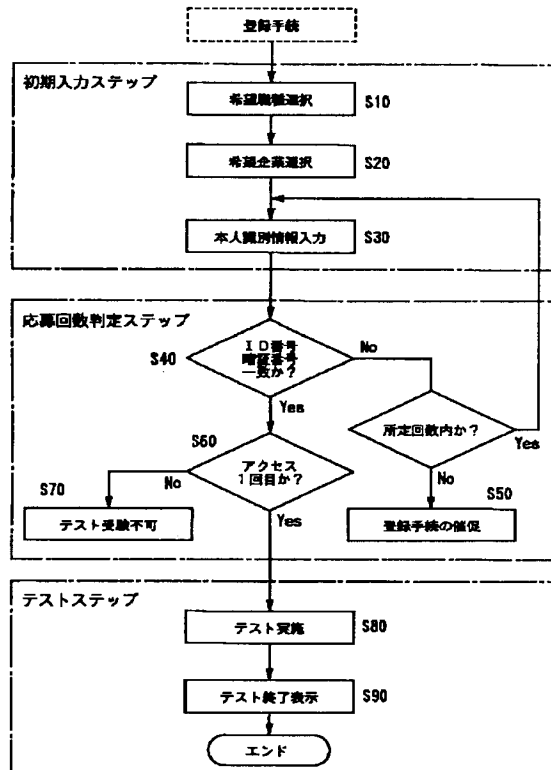
【図5】



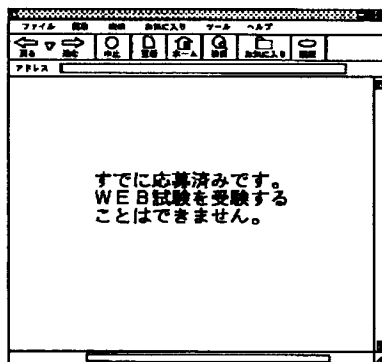
(8)

特開2002-32545

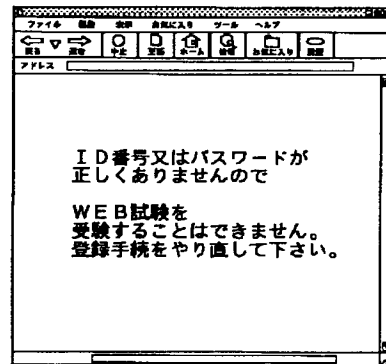
【図2】



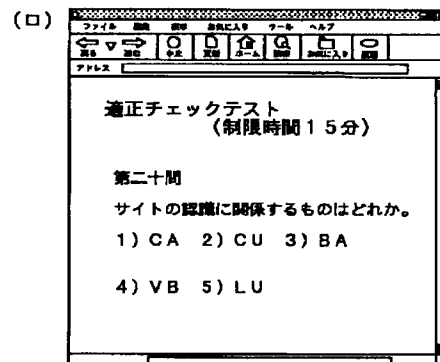
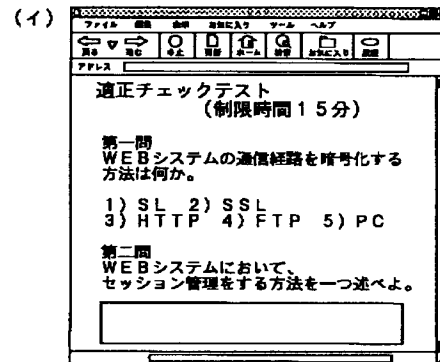
【図7】



【図6】

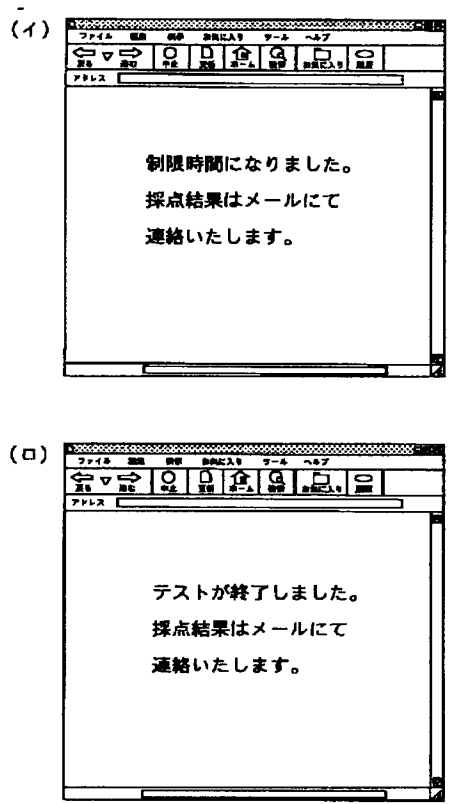


【図8】



(9) 特開2002-32545

【図9】



【図10】

